



2018年度 第2四半期決算説明会 イビデン株式会社 (4062)

2018年11月02日

このプレゼンテーション資料には、2018年11月01日現在の将来に

関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。

世界経済・競合状況・為替変動等にかかわるリスクや不確定要因

により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

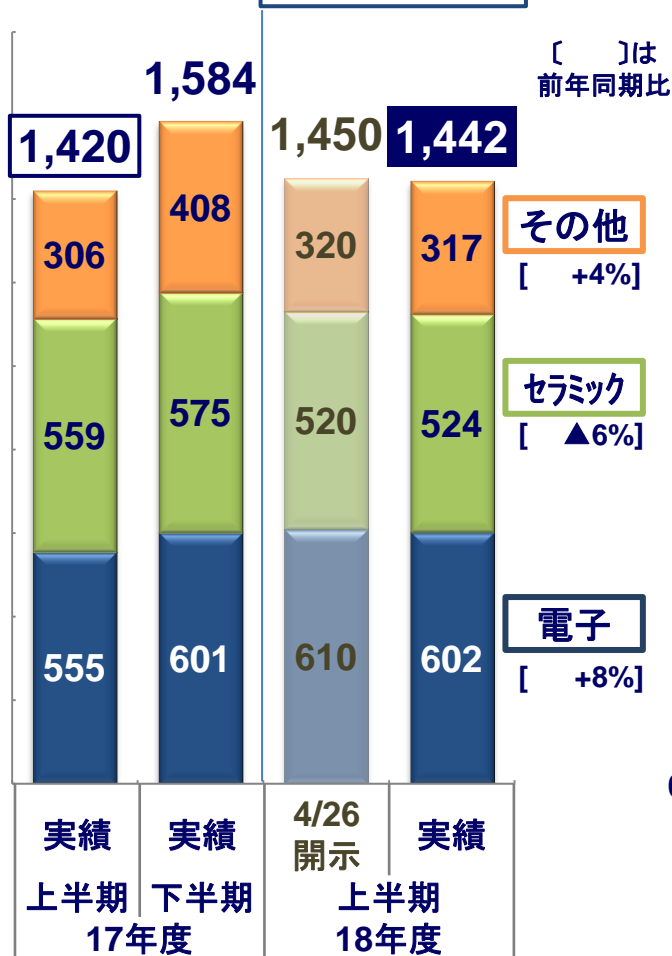
2018年度上半期 実績

2018年度(上半期) 売上高・営業利益・純利益 実績 **IBIDEN**

売上高

(億円)

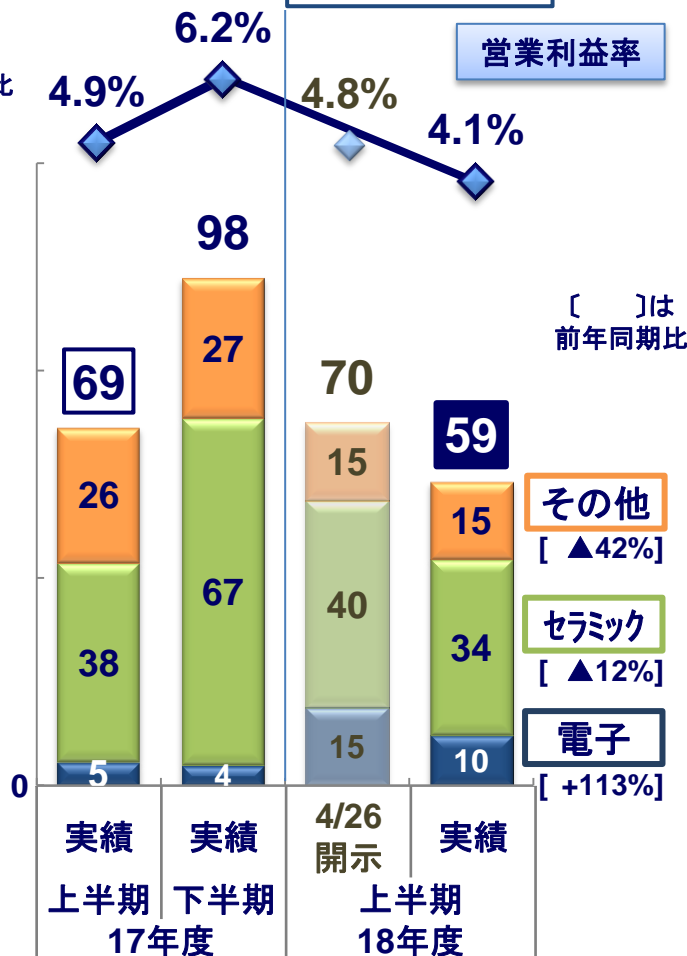
前年同期比
+1.6%



営業利益

(億円)

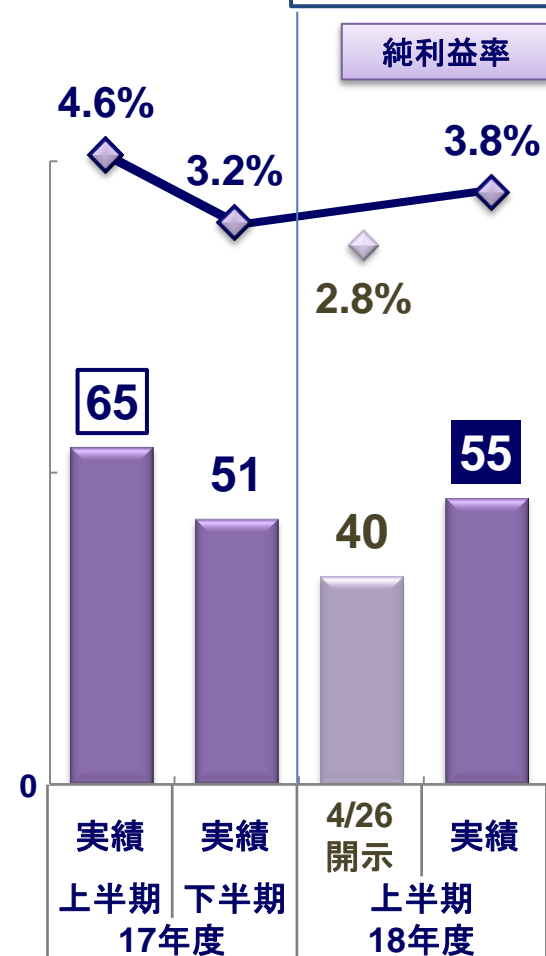
前年同期比
▲15.0%



純利益

(億円)

前年同期比
▲15.0%



為替(ドル)
為替(ユーロ)

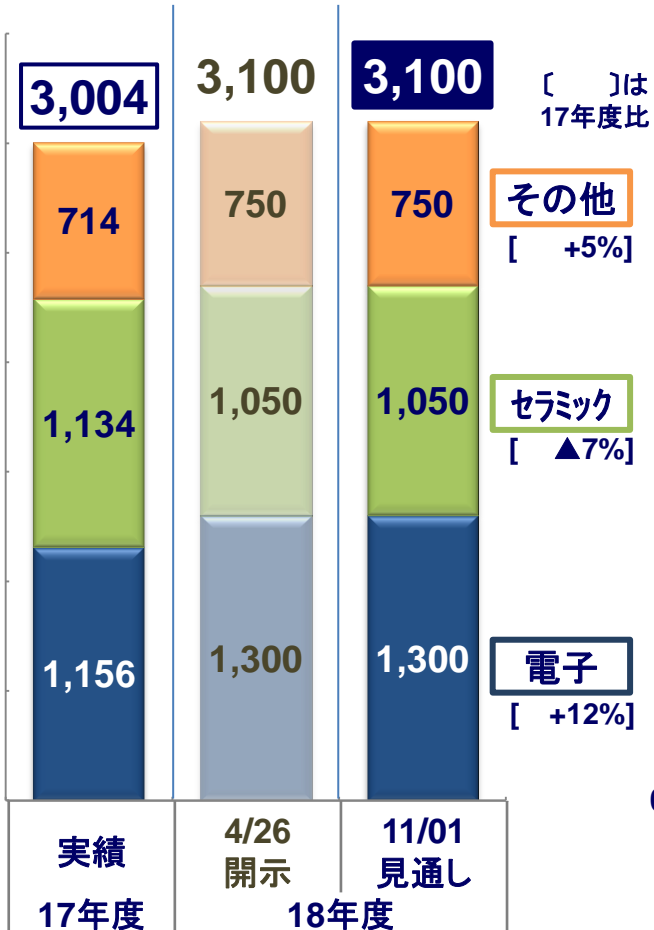
2018年度 見通し

2018年度(通期) 売上高・営業利益・純利益 見通し *IBIDEN*

売上高

(億円)

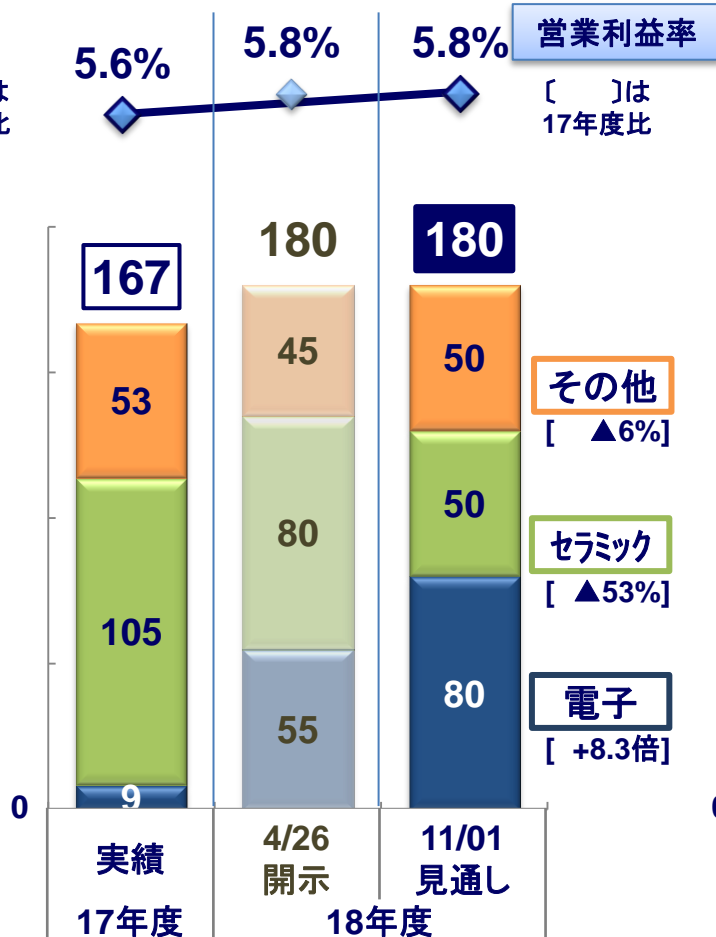
17年度比
+3.2%



営業利益

(億円)

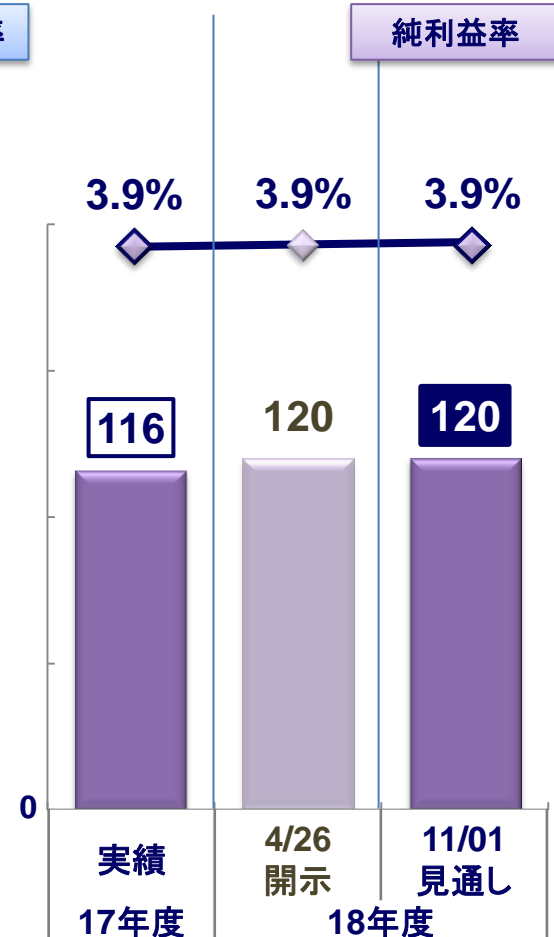
17年度比
+7.8%



純利益

(億円)

17年度比
+3.6%



110	105	109	為替(ドル)
127	120	129	為替(ユーロ)

市場見通しと 当社事業展望

[電子] 既存市場の動向

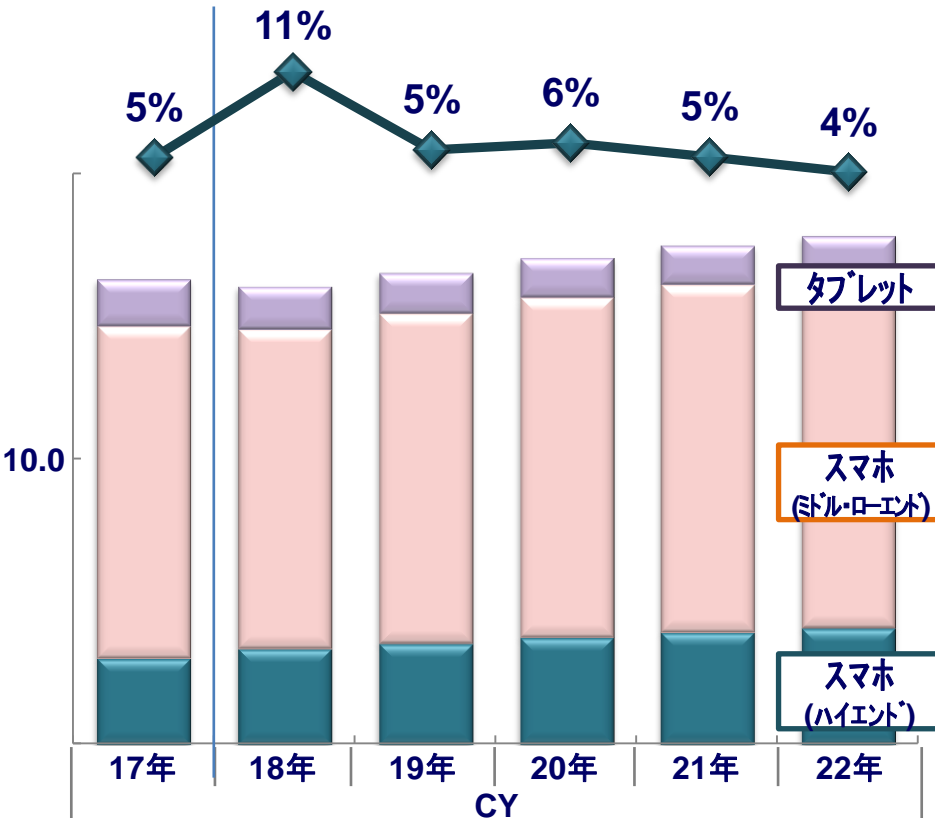
- ハイエンドスマホ市場: 緩やかな成長を継続する見通し
- パソコン市場: 市場は横ばいで推移するも、次世代パッケージ基板の採用が進む見通し

スマホ・タブレット市場

(当社調べ)

(単位:億台)

■スマホ(ハイエンド)成長率

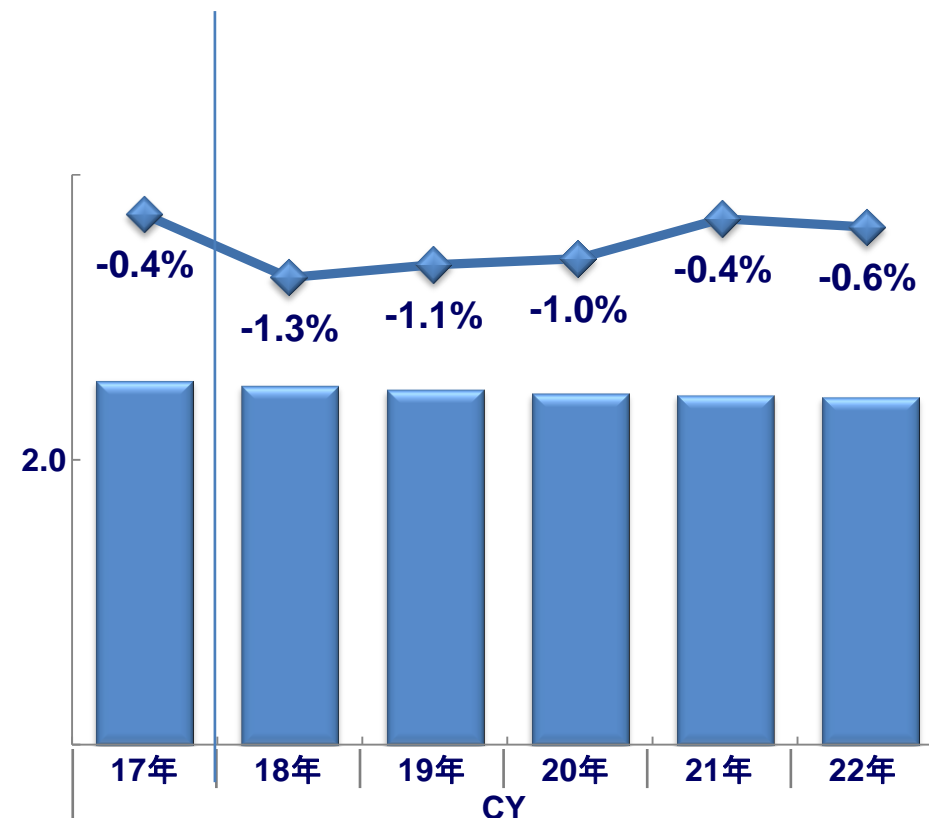


パソコン市場

(当社調べ)

(単位:億台)

■パソコン成長率

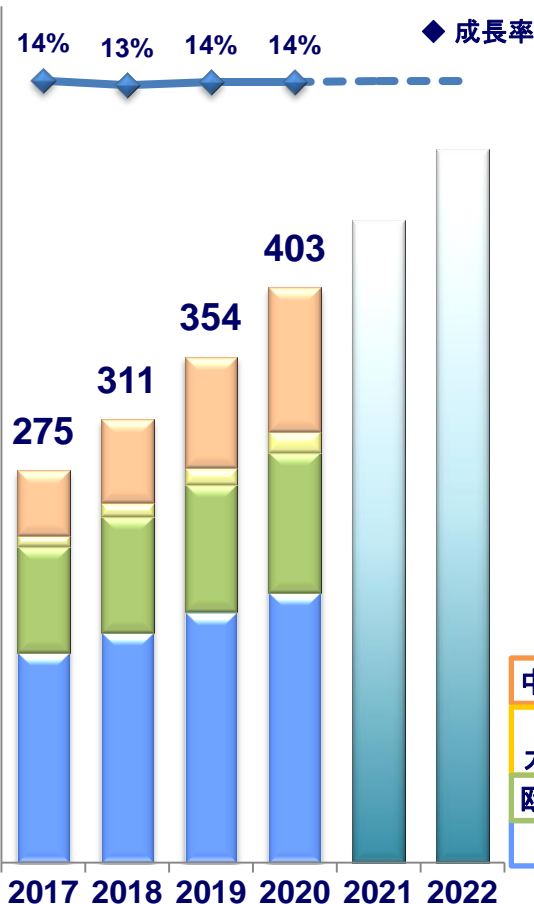


[電子] 当社が狙う新領域

- IoTの進展に伴いスモールセル(5G)市場が増加、高速伝送PKG・PWBが拡大
- ビッグデータの増加に伴いデータセンター(サーバー)が高機能化、高多層PKGが拡大

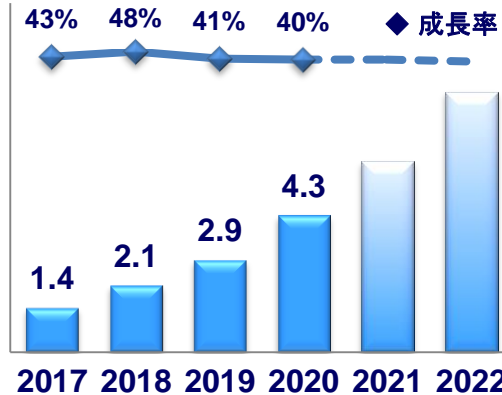
IoTデバイス数の推移

(億個) (当社調べ)



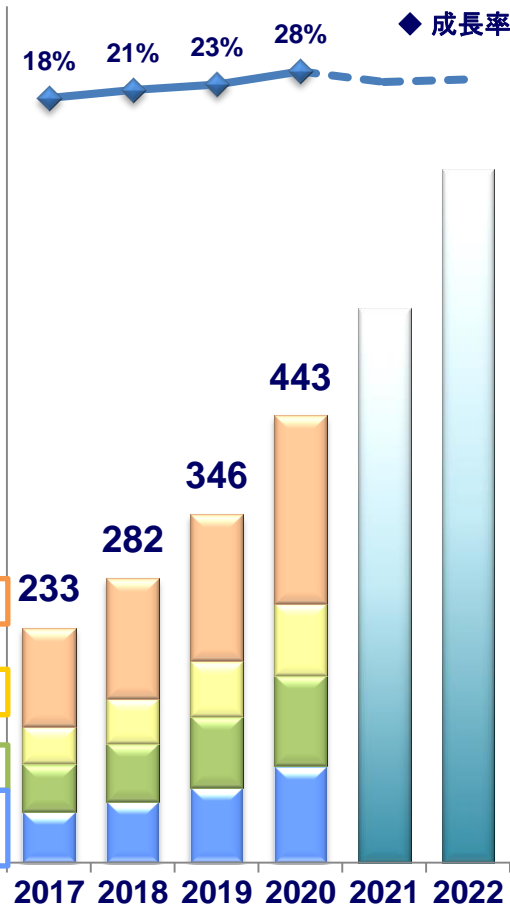
データトラフィックの推移

(億テラバイト/月) (当社調べ)



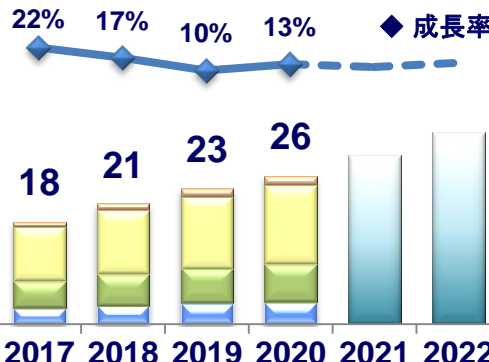
データセンター市場規模の推移

(億ドル) (当社調べ)



スモールセル市場の推移

(億ドル) (当社調べ)



その他
自動車
コンピュータ
他

通信機器
・端末

中南米
アジア
太平洋
欧州他
北米

その他
事業会社
金融
クラウド
サービス会社

半導体の高機能化・高速化への対応及びサーバー、画像処理などを中心とした新たな需要に対応するため、ICパッケージ基板の生産体制強化を図る。



大垣中央事業場 第2棟



大垣事業場

<設備投資の概要(予定)>

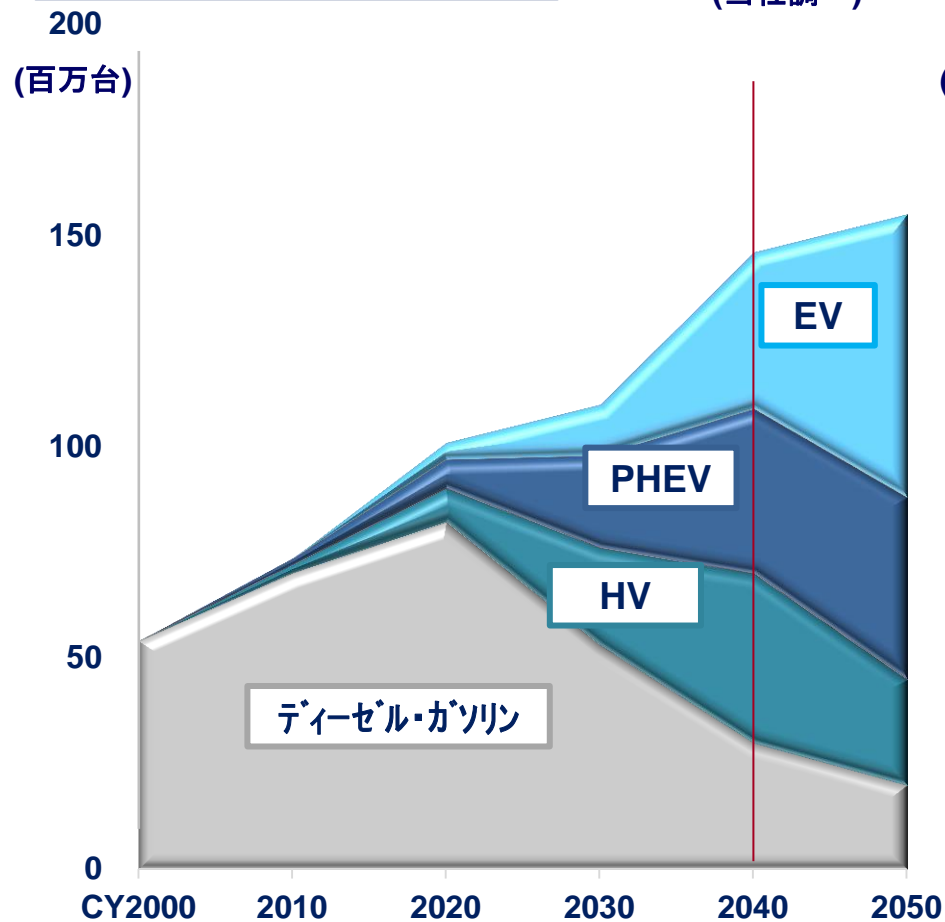
- (1) 投資内容 : 次世代及び新分野向けICパッケージ基板製造設備
- (2) 投資額 : 700億円(2019~2021年度 合計)
- (3) 設置場所 : 大垣中央事業場(第2棟)及び大垣事業場(両事業場共に岐阜県大垣市内)
- (4) 稼働時期 : 2019年度より順次稼働開始し、2020年度より量産開始の計画
- (5) 生産能力 : 本件投資により、ICパッケージ基板の生産能力は、先行して実施している投資の寄与分を含め、2021年度までに約50%の増強(層数換算)を計画

[セラミック] 自動車市場の長期見通し

- 乗用車は長期的に電動化が進展するも、中・大型商用車は内燃機関が主軸
- パワートレインの変化に対し、求められる技術・製品を市場に提供していく

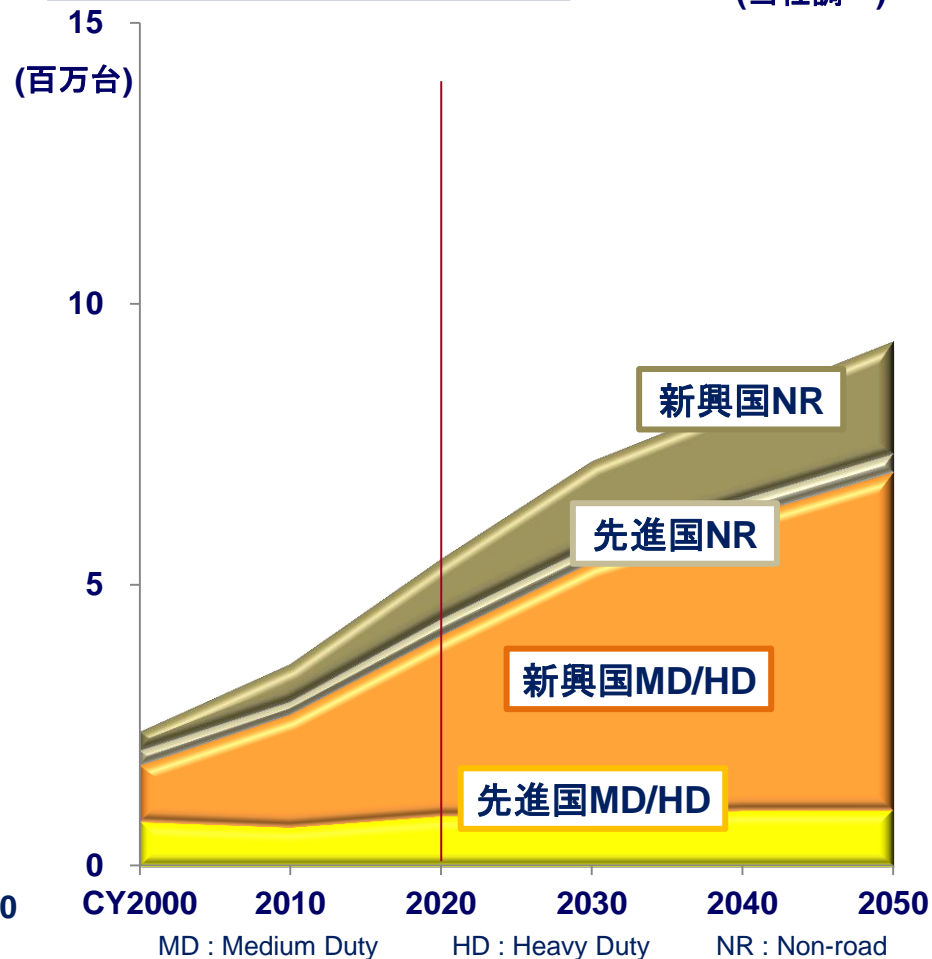
乗用車

(当社調べ)



中・大型商用車

(当社調べ)



[セラミック] 排気系事業

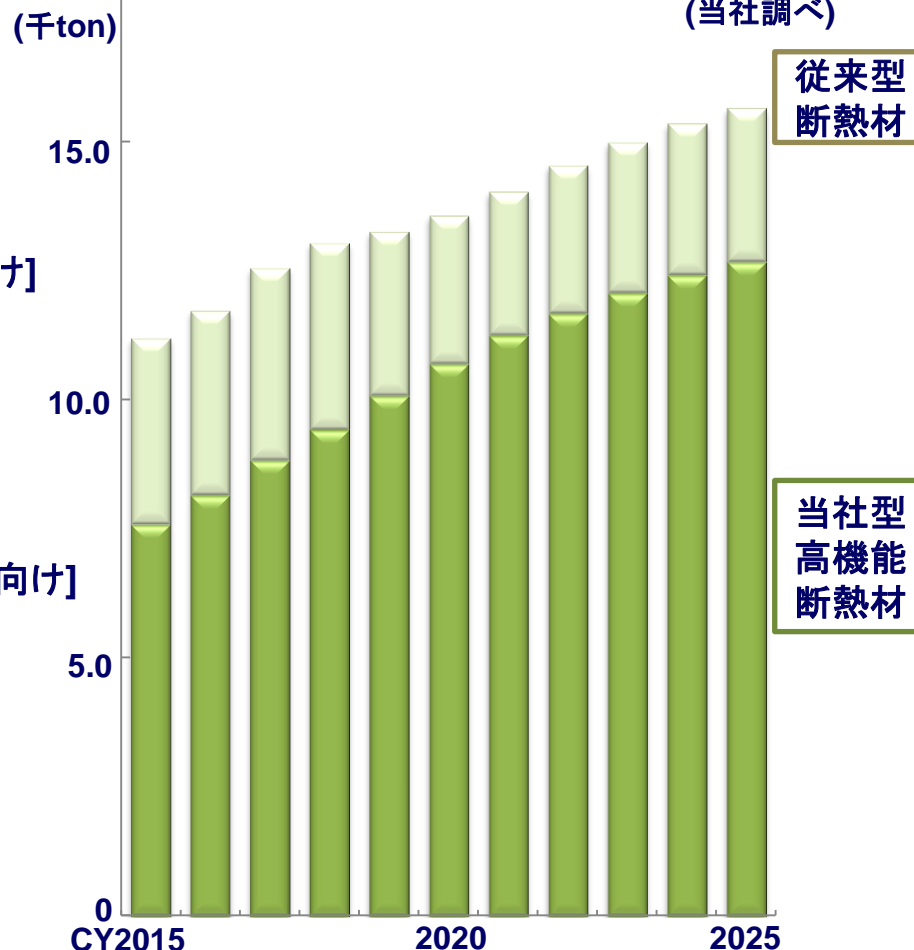
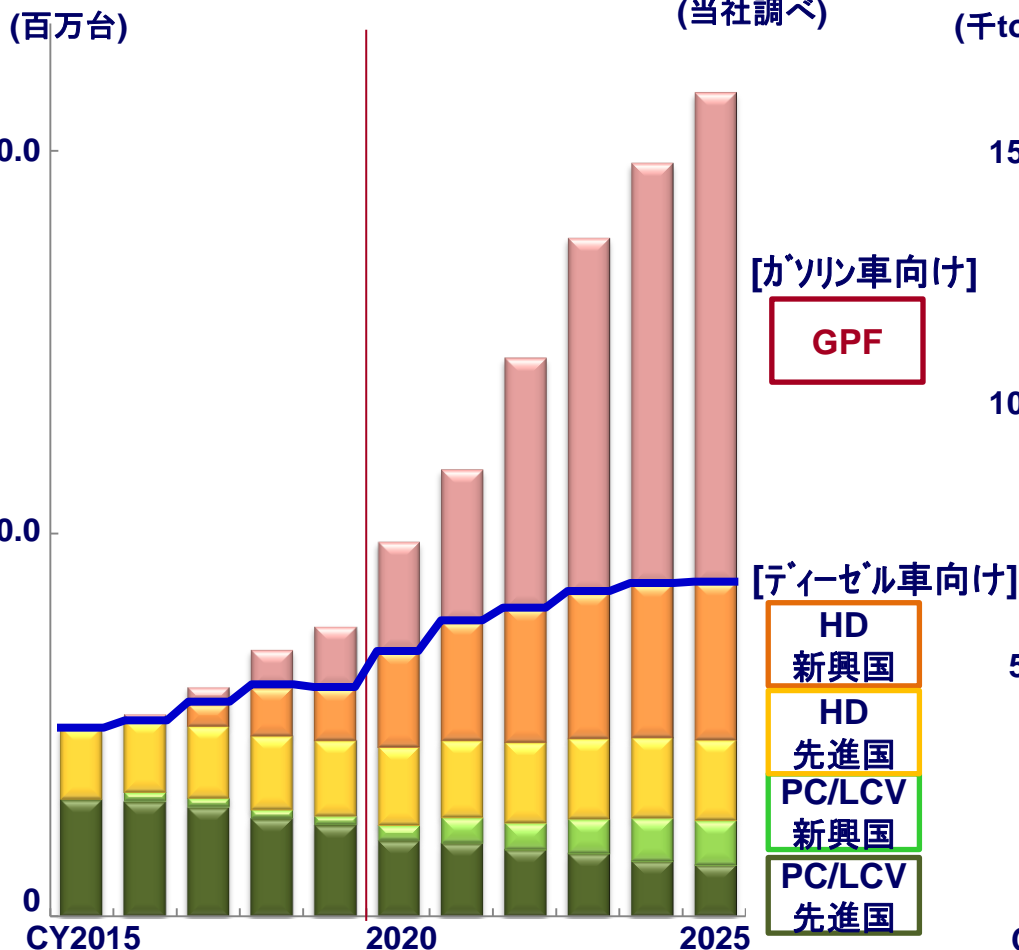
*PC : Passenger Car (乗用車)
 *LCV : Light Commercial Vehicle (小型商用車)
 *HD : Heavy Duty Car (大型車) = 乗用車の約3倍換算



- 市場の変化に対し、グローバル生産体制の最適化・効率化を進める
- 新興国の大型市場、高機能次世代仕様製品を中心に継続成長を実現する

DPF/GPF市場

自動車用触媒担体 断熱マット



開発センターの活動を加速

セラミック成形・焼成技術を活かしたHV&PHV用の高性能給排気システム開発

自動車機能製品開発センター

セラミックス・黒鉛技術を元に航空分野向けの高耐熱セラミックス部材開発

先進セラミック開発センター

将来モビリティ製品開発センター

PHV&EV向けの高機能エネルギー(電気・熱・音)制御材料を開発

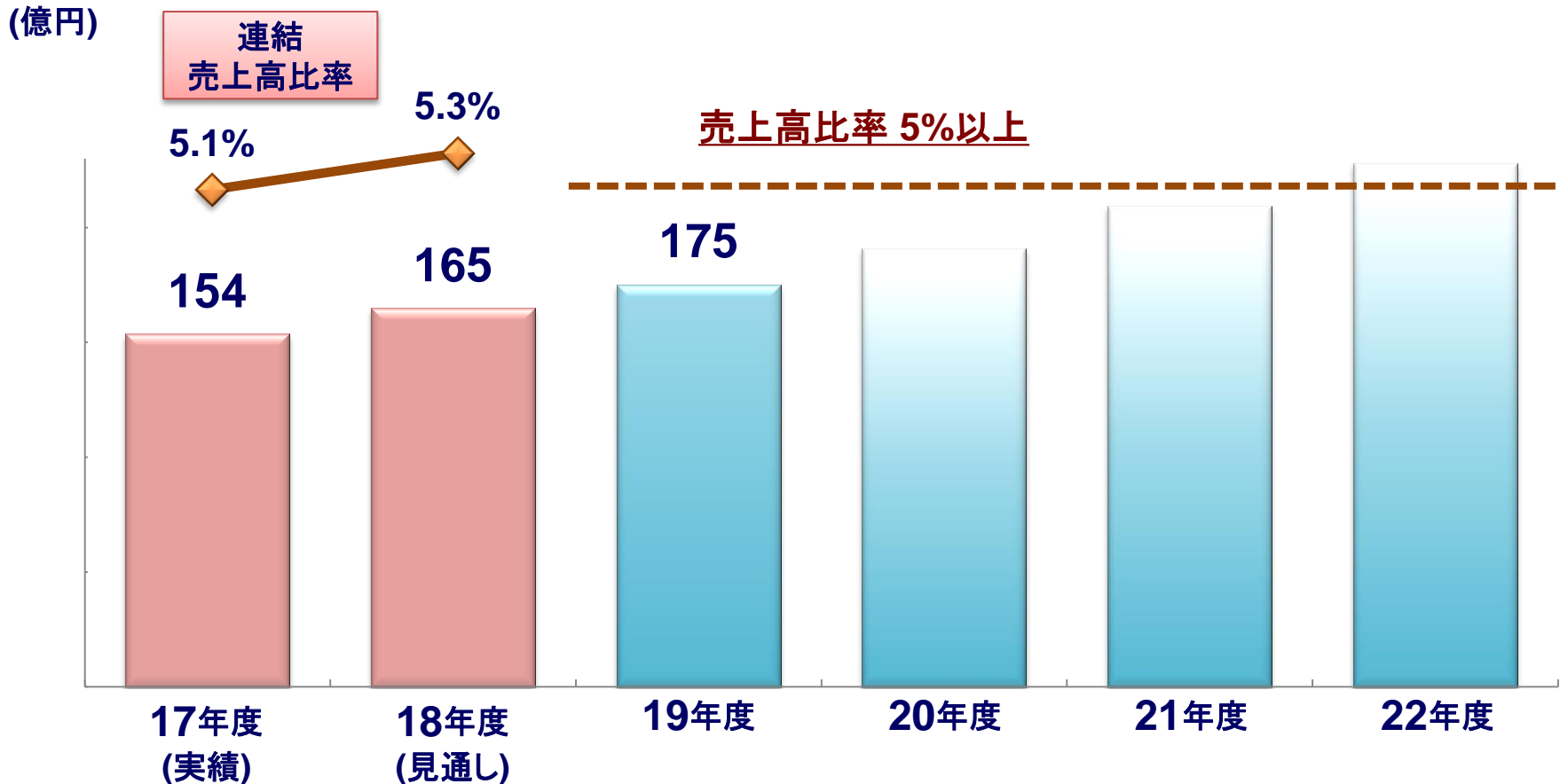
バイオマテリアル製品開発センター

当社独自のバイオ技術で高機能生物農薬・機能性成分材料を開発

研究開発費の計画

- 4つの開発センターを軸に研究開発費を投入し、新製品の早期事業化を果たす
- グループ会社事業にも、技術開発部門の支援を入れ、独自の競争力づくりを行う

研究開発費の推移

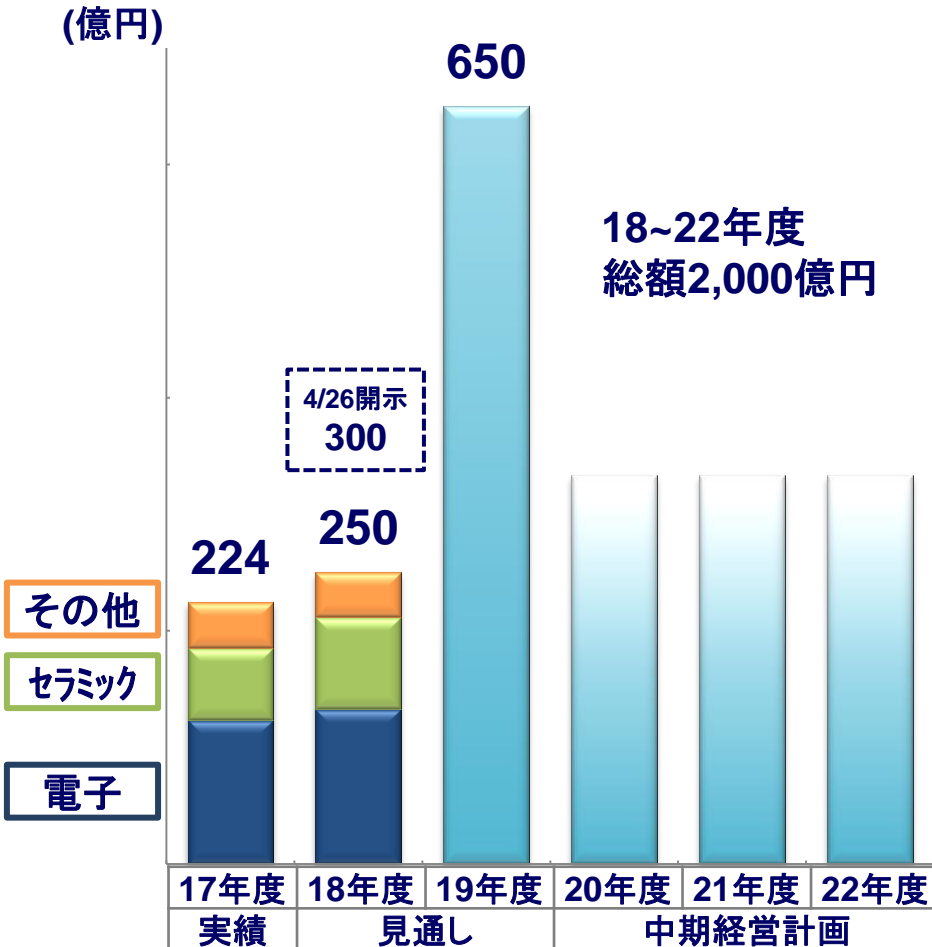


設備投資(検収)額・減価償却費の計画

- 電子 : 成長領域への対応投資 (次世代パッケージ・高機能サーバー・画像処理)
- セラミック : 高機能次世代製品への対応投資

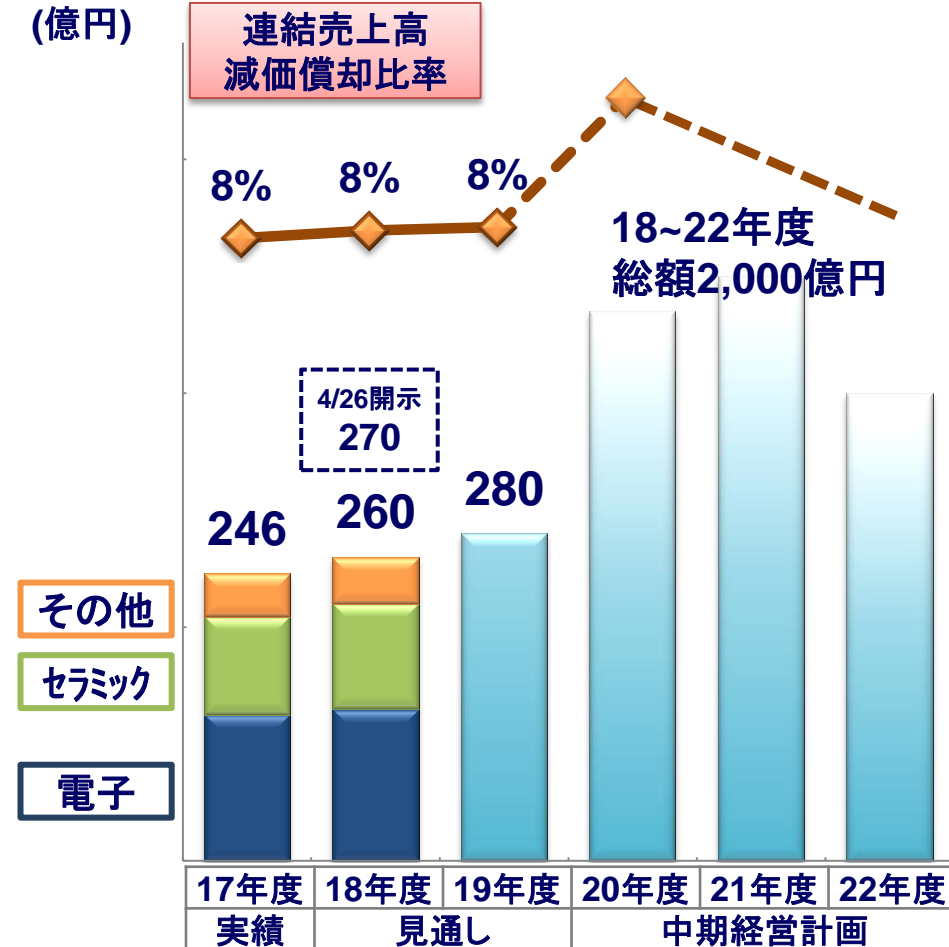
設備投資額

(億円)



減価償却費

(億円)

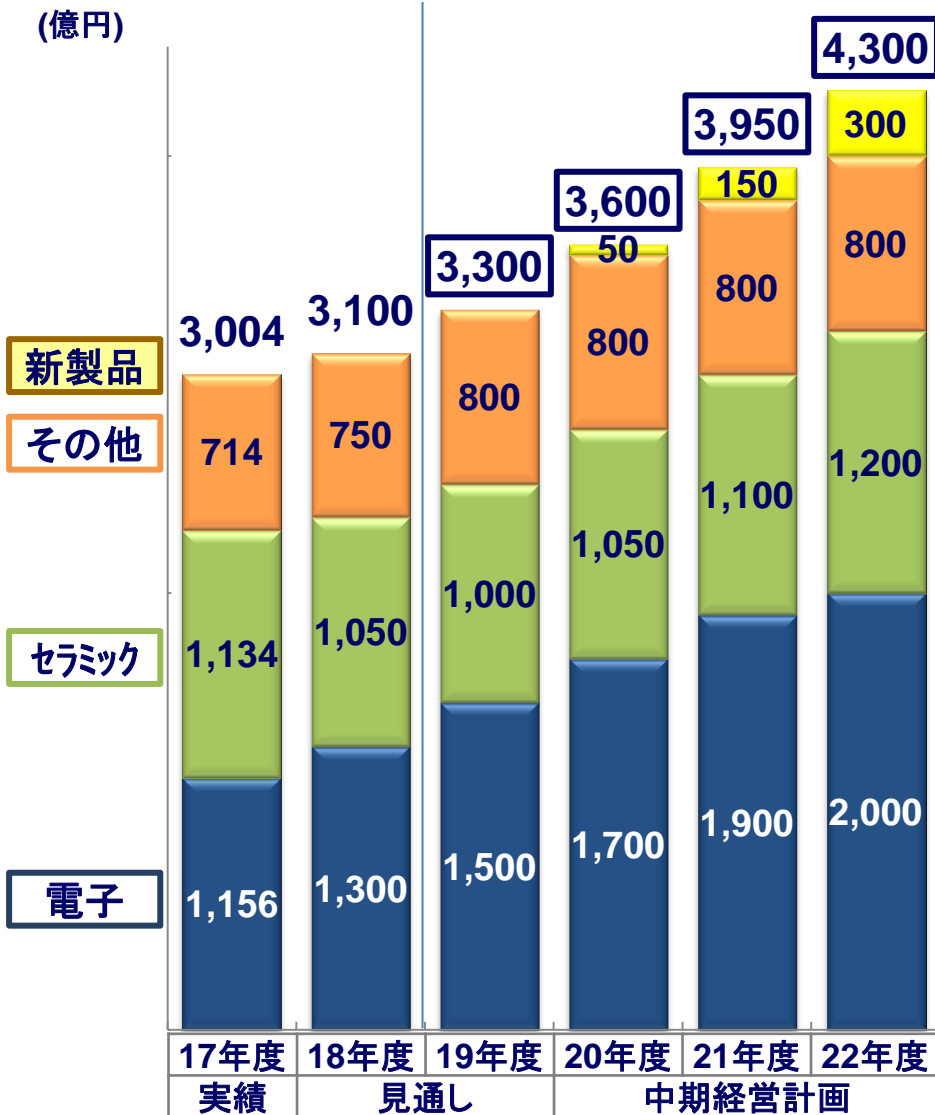


中期業績見通し



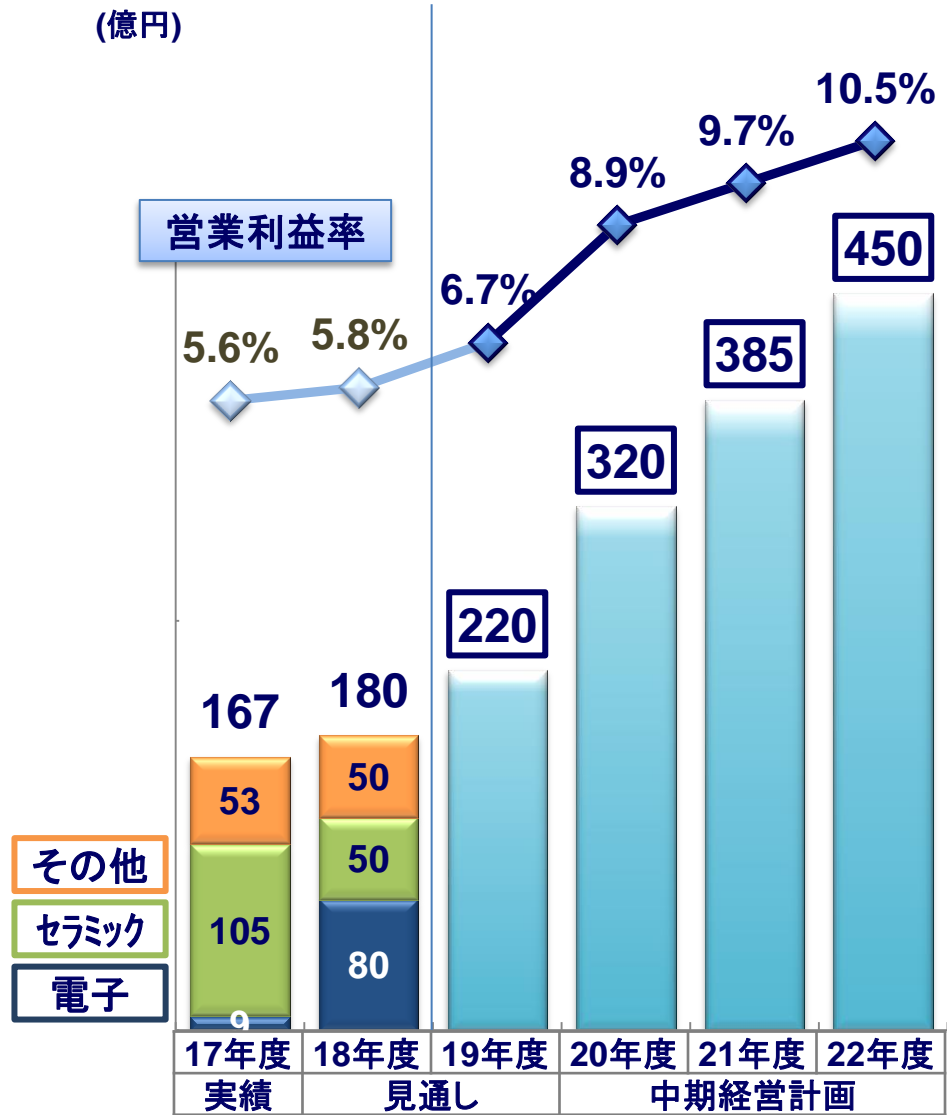
売上高

(億円)



営業利益

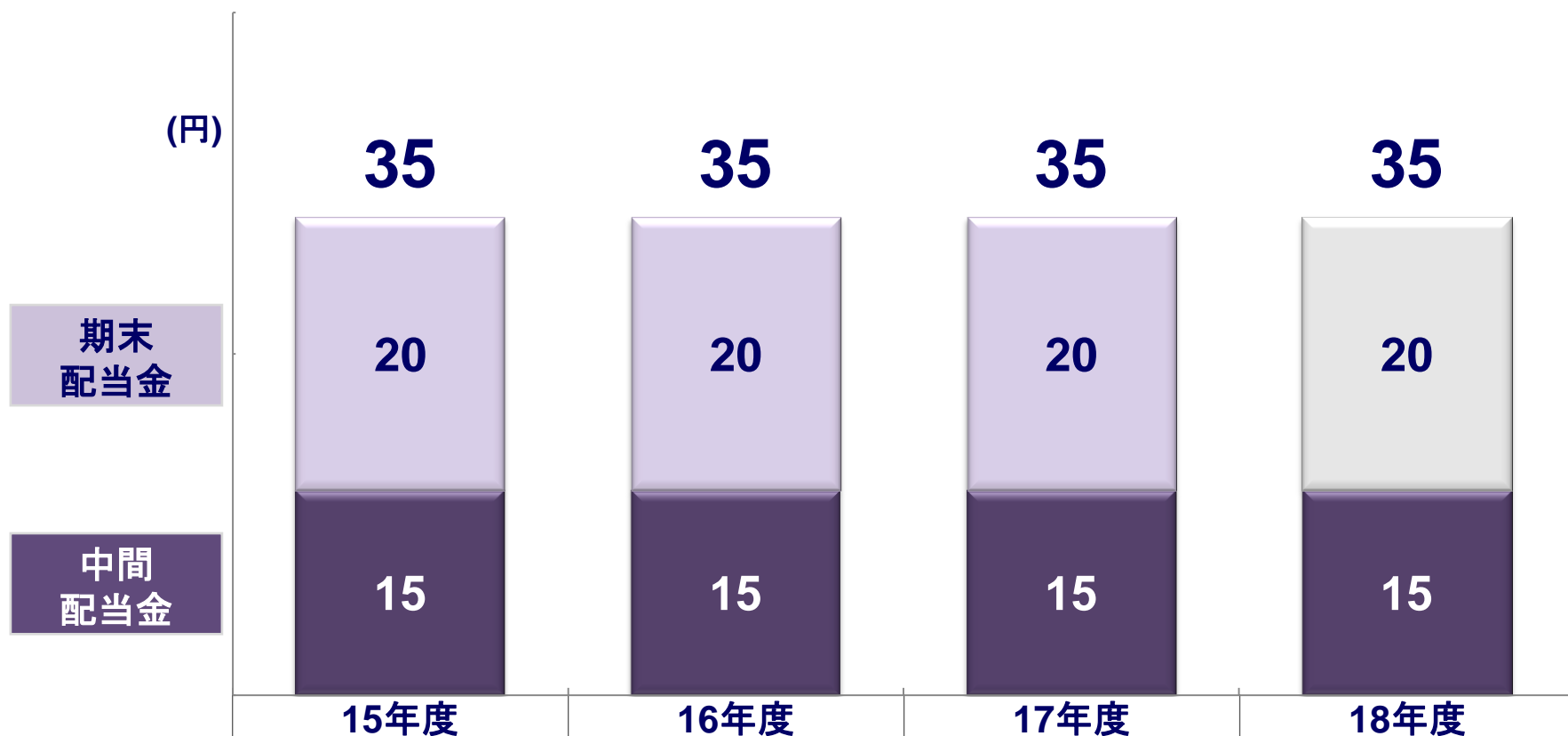
(億円)



株主還元

- 安定配当を継続する
- 2018年3月末時点 100株以上所有の株主様に対し、株主優待を実施

一株当たり配当金



memo



ESG経営の推進

当社のESGへの取組み

Environment (環境)



衣浦事業場 水上フロート式太陽光発電所

Social (社会)・Governance (ガバナンス)



女性活躍推進フォーラム(プレゼンテーション)



MSCIジャパンESGセレクリーダーズ認証



Index構成銘柄に採用



経産省の認定制度に2年連続認定

(免責事項)

MSCI：MSCI指数におけるイビデン株式会社に関わる情報、本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマーク、MSCI名称の使用は、MSCIまたはその関連会社によるイビデン株式会社への後援、保証、販売促進には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的所有権となります。
 MSCI、MSCI指数ならびにロゴは、MSCIあるいはその関連会社の商標、サービスマークです。
 FTSE：FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はイビデン株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。
 FTSE Blossom Japan Indexは「グローバルインデックス」であるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。
 FTSE Blossom Japan Indexは「サステナブル投資のファンド」や他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。